

## 台北日本人学校での派遣3年間を振り返って

下関市立一の宮小学校 教諭 新内 俊允  
(平成30年度派遣 台湾 台北日本人学校)

### 1. 我が街、台北

台湾は小籠包やマンゴーアイスなど、美味しい食べ物が有名ですが、激動する国際情勢の中でも非常に安全で親日的、しかも日本から近距離なので、日本から観光で最も訪れやすい地域です。1895年から50年間の日本統治時代に教育や産業、治水事業など様々な場面で日本人が活躍し、台湾の発展に貢献しました。初代宜蘭<sup>いーらん</sup>庁長を務め、宜蘭川の氾濫をなくすために堤防をつくった西郷菊次郎<sup>うさんとろう</sup>や烏山頭<sup>うさんとう</sup>ダムを建設した八田<sup>はった</sup>與一<sup>よいち</sup>は今でも現地の人々に愛され続けている日本人として有名です。その首都である台北市は台湾の北に位置し、台湾の首都で約270万人の大都市です。近代的なビルの中に、総統府や行政院、立法院など統治時代の建築物が今も政治の中心として現役で活躍している姿に、良いものを大切にしている台湾の人々の心と台湾に愛されている日本を実感できます。



台湾人の台所 夜市



台北のシンボルタワー 台北101



九份 千と千尋の神隠しで有名

### 2. 台湾の教育事情

台湾の義務教育は2014年から高校までの12年間となりました。6・3・3と日本と同じ制度ですが、高校は國中<sup>こくちゅう</sup>教育會考<sup>きょうかいこう</sup>と呼ばれる全校統一模試を経て普通型、技術型、綜合型、単科型のいずれかの高級中学に入学することになります。小中学校では週授業時間は標準で小学校低学年23時間、中学年26時間、高学年32時間、中学校は35時間となっています。小学校では水曜日の午後は教員の研修等で活用できる時間となっていて、子どもたちは午前中授業です。放課後は学校のクラブや塾、各種習い事に参加しています。また、昼食後は必ず昼寝の時間(40分間)があります。教員は各校が独自に採用していて、基本的には転勤は無いので、定年まで同じ学校にいる先生もいます。



現地校の授業風景



36年のお付き合い 天母國小



お昼寝タイム

### 3. 台北日本人学校の特色

本校は台北市の北部、外国人が沢山住む<sup>てんむ</sup>天母地区という住宅地にあります。当地に移転してきて以来 36 年、アメリカンスクールと現地小学校がすぐ近くにあるいわゆる文教地区となっています。令和 2 年度 12 月現在、小学部 566 名 中学部 184 名、計 750 名が在籍しており、世界で 6 番目に大きい在外教育施設と言われています。この地で「自ら考える力と思いやりの心を育み、心身ともにたくましい児童生徒を育成する」という本校教育目標を全国から派遣された教員と現地教員で力を合わせ、日々追求しています。



中学部 合唱コンクール



台北日本人学校 正門



小学部 ミュージックフェスティバル

教育活動では特に次の 4 点に力を入れています。

#### ①「現地校との盛んな交流」

各学年の交流校（現地校）とは、一年間に訪問と受入れの二回実施しています。日本人学校には中国語を話せる児童生徒が多くいるので、すぐに現地の子どもと親しくなります。



AFPYで交流



メッセージカードの交換



一緒にスクラッチを作成中

#### ②「台北日本人学校版 GIGA スクール構想」

教室にはプロジェクターと Wi-fi が整備され、小学部低学年は iPad、小学部中学年から中学部の生徒は一人一台配付の Chromebook を効果的に活用し学びを深めています。



てこのまとめを共有



今回の課題は新聞づくり



MESHを使ってプログラミング



### ③「少人数による外国語教育」

全学年で中国語と英語活動を週一時間ずつ学習しています。各クラスを中国語は3レベルに、英語活動は小学3年生から6年生までは4レベル、他の学年は3レベルに分けて、会話を中心にネイティブ教員が指導しています。台湾は特に英語に対する関心が高く、幼少期からの英語塾も多いため、中国語・英語共に各クラス充実した授業を展開しています。



春節のお祝い チャイナドレス



ハロウィン 仮装大会

### ④「飛び込み行事」

本校が非常に魅力的なのは、一流の方々が台北日本人学校と繋がってくださることです。昨年度は、ピアニストの辻井伸行さんが体育館で演奏会を開いてくださいました。また、今年度12月には、台湾のIT大臣であるオードリー・タンさんが本校で講演会をしてくださりました。また、故李登輝元総統と会談できたのも、一生の財産となりました。



オードリー・タン大臣 講演会



辻井伸行さん 演奏会



故李登輝元総統と会談

### ※オードリー・タン大臣講演会について

今回の講演会では、質疑応答形式で、小学部4年生～中学部3年生の各学年2つずつの質問に答えていただきました。中学を退学したことやトランスジェンダーであることなど、一般的にマイノリティでネガティブに捉えそうな事象もそう捉えておられず、いかに我々が小さな狭い価値観の中で生きているかに気づかされました。プログラミング、多様性を尊重する社会、台湾と日本の関係など話は多岐に渡りましたので、小学部の児童には少し難しい内容でした。しかし、同じ空間にいて、直接オードリー大臣の思想や息づかいに触れられたことは、児童生徒にとってかけがえの無い経験になりました。中学3年の生徒は、オードリー大臣に以下のような質問をしました。素晴らしい講演会になりました。

In our lives, there are moments when we do not have the courage to “be open” about ourselves, what made you have that courage to let others know about yourself deeply?

#### 4. 3年間の教員生活

私は、1年目は担任でしたが、2年目、3年目は小学部長、教務部長という立場でした。担任は、日本の学校と同じ仕事内容です。日本人学校と言えども文部科学省の定めた学習指導要領に則り全てのカリキュラム（特徴的ではありますが）は組まれています。山口県と異なるのは、国際家庭の児童が多い点です。日本語が苦手な児童も多少おり、その児童も含めいかに魅力的な授業をして惹きつけるかが勝負になります。フリートークとAFPYの2本柱で学級経営を行い、単元や授業、行事を展開できたのは良い経験になりました。

2年目の小学部長は大いに苦労した1年間となりました。毎年約100人が転出入しますので、転出入に関わる文書の作成に終わりました。また、小学部21学級がテリトリーですので、常に学年主任や担任と連携して様々な問題に対応しました。学んだことは、見通しをもった学部経営です。日本人学校ならではの、全国から派遣教員が集まります。県によって学校文化は異なります。様々な経験や考え方をもった教員集団ですので、一つの行事を実施するにしても多くの議論を必要としました。また、台北日本人学校は、派遣が約30名、現地採用が約30名の教員集団です。派遣教員と現地採用教員でも経験や考え方が異なります。中学部の先生方との考え方の違いもあります。同じ敷地内で生活しますが、小と中では文化が異なります。お互いを尊重しつつ、連携しつつの毎日でした。そして何よりも、年度末から発生したコロナ対応は大変でした。ここは台北日本人学校ですので、台北市政府の判断を仰ぎながらも最終判断は本校独自で決断する日々でした。



スポーツフェスティバル大成功



秋の遠足 台北市動物園

3年目の教務部長は、これまた今までに経験したことの無い仕事に挑戦する日々となりました。一番重要な仕事は、なんと「時間割」でした。本校は、小学部5年生から教科担任制にしていること、小中またがって指導する教員がいること、専科の授業が多いこと、そして様々な行事の関係で時間割を調整する必要があることなど毎日学校が上手くまわるのかドキドキ（と言うかむしろビクビク）していました。他にも、職員会議などで学校全体に関わる提案・取りまとめ・調整や小中全保護者との連携など多岐に渡る仕事を体験することができました。そして何よりもコロナの影響で今年度10人の派遣教員が本校に来られないことが決定してからは激動の日々でした。4か月間、非常に厳しい状況の中、学校が一体となり乗り切りました。学んだことは、管理職とともに広い視野を携えた学校経営です。児童生徒・教員・保護者・地域・国と言った幾つもの視点を意識しながら日本人学校ならではの経験をさせていただけたのは、本当にかげがえの無い財産になりました。



## 5. 充実した現地での私生活

### ①台北での生活

台湾は中国語を公用語として使用します。我々派遣教員は少しでも台湾文化を理解するため、中国語の習い事を始めます。私は週に1回日本人学校ご用達の語学学校に通いました。そこで簡単な中国語を習得し、日常生活で最低限必要な会話はできるようになりました。妻は生活をより充実させるため、週に2回語学学校に通い熱心に中国語を学習しました。言語交換（台湾人の方々と中国語・日本語両方で話す）をしたり、中国語検定に挑戦したりして、生活に刺激を加えながら3年間中国語を学びました。子ども2人が現地の幼稚園で中国語環境の中、元気一杯に生活することができたのは、得難い体験になりました。



何度も行った台北市動物園



一の宮小の家族の台湾オレンジツアー



大好きな陽明山登山

### ②3回の台湾環島

毎年夏休みは、家族で台湾一周しました。台湾の人たちの中で台湾を一周する環島が人気で、我々家族もレンタカーで約13日間かけて周りました。計3周したことになり、台湾をより実感することができました。台湾は台北以外にも魅力的な多くの地域が沢山あります。予想しなかった台湾との出会い、初めて食べる美味しい食べ物など、偶然が引き起こす新しい発見・気づきの満載な台湾環島は、我々にとってかけがえの無い経験になりました。一番の思い出は、台東の太麻里という地域にあるオレンジ色のユリが咲き誇る金針山との出会いです。オレンジ色フリークな私にとって橙魂が震える体験になりました。



うさんとう  
烏山頭ダム見学



マンゴー狩り



金針山のオレンジの花

## 6. 家族の支え

最後となりますが、台湾は治安が良いとは言え外国です。様々なトラブルはつきものです。また小学部長・教務部長という慣れない仕事に深く悩むこともありました。その時にいつも支えてくれたのが家族でした。家族には、感謝しかありません。非常多謝您的照顧。